2018.11.11　年間第３２主日

この貧しいやもめは、だれよりもたくさん入れた

マルコによる福音　12:41-44

　イエスは賽銭箱の向かいに座って、群衆がそれに金を入れる様子を見ておられた。大勢の金持ちがたくさん入れていた。ところが、一人の貧しいやもめが来て、レプトン銅貨二枚、すなわち一クァドランスを入れた。イエスは、弟子たちを呼び寄せて言われた。「はっきり言っておく。この貧しいやもめは、賽銭箱に入れている人の中で、だれよりもたくさん入れた。皆は有り余る中から入れたが、この人は、乏しい中から自分の持っている物をすべて、生活費を全部入れたからである。」

説教

礼拝に出ると「スッキリ」した気分になる、この感覚はキリスト教信者ならだれでも経験したことがあるでしょう。クリスチャンではなくても、たとえばお墓参りすると気分がよくなるということもあります。献金もこれに似ていて思い切って多くの金額をするとふだんとは違った気持ちよさを味わうこともあります。さて、きょうのイエスさまは変わった行動をとります。献金箱の向かえに座って誰がどのくらいの金額を献金するかを観察しています。

> **「はっきり言っておく。この貧しいやもめは、賽銭箱に入れている人の中で、だれよりもたくさん入れた。皆は有り余る中から入れたが、この人は、乏しい中から自分の持っている物をすべて、生活費を全部入れたからである。」**マルコ 43-44

このイエスさまの評価は神さま目線での評価です。金額の多い少ないではなく、捧げる方の態度・姿勢に関しての神さまの評価でしょう。献金とは感謝の気持ちの代価だ、こんな言い方をすると信仰もへんな方向にいってしまいます。神さまへの感謝を金額ではかることはできません。献金とはこうだとは言い切れないし、言い切っては過ちです。

マルコ 10 章には全財産を捧げなさいとのイエスの薦めに従うことのできない金持ちの男のはなしがありました。また盲目の物乞いのバルティマイのは

なしもありました。イエスさまは彼の願いをききいれ目を開きました。きょうの貧しいやもめは神さまになにを願っているのかは記されずに、献金態度だけ取り上げられて、イエスさまに高く評価されています。
福音からなにを聞き取ればいいのか、説教はそれをあきらかにすることですが、正直、むずかしくてよくわかりません。かりにきょうの福音が献金ではなくて献血だとすればどうなるでしょう。
金持ちは人よりたくさんの量の献血をするだろうか、貧しいやもめはためらわずに献血に応じるだろうか？
わたしたちは礼拝でパンとワインをいただきます。それはイエスさまの体と血の秘跡です。
献血と献金、思考実験として、どうぞ考えてみてください。そして、自分がなにを願っているのか、また、なにを捧げているのかを思いめぐらしてみましょう。